

ムギラン *Bulbophyllum inconspicuum* Maxim.

【除外理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 2、総点 9。自然度の高い森林に依存する着生植物であるが、その中では生育地も個体数も比較的多く、さしあたり絶滅が危惧される状態ではない。

【形態】

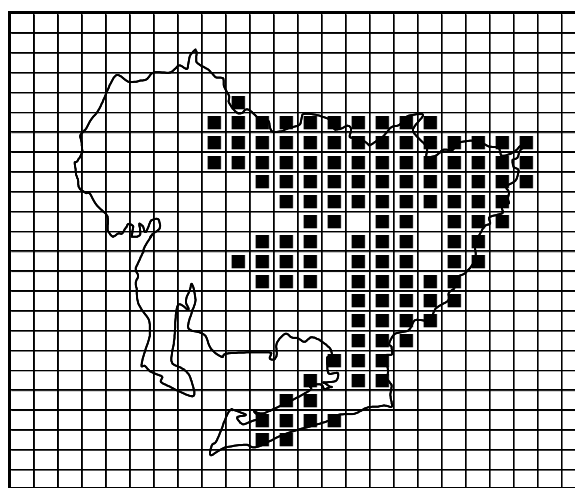
常緑性の多年生草本。茎は細く、横にはい、卵球形で長さ 6~8mm の偽球茎をまばらに連ね、その上に 1 個の葉をつける。葉は肉質で厚く、長楕円形、長さ 1~3cm、幅 6~8mm、先端は円頭、中脈は明瞭である。花期は 6~7 月、偽球茎の基部から長さ 6mm ほどの花茎を出し、その先端に帯黄白色の花を 1~3 個つける。苞は長楕円形で膜質、がく片は 3 枚で卵状楕円形、長さ 3~3.5mm、側花弁はがく片とほぼ同長で、辺縁に毛がある。唇弁は卵形で厚く、ずい柱の基部から出る突起の先につく。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 46957, 1993-8-22)、2 豊根 (加藤等次 3704, 1993-9-11)、3 東栄 (小林 39483, 1992-9-19)、6 設楽西部 (小林 41684, 1993-4-24)、9 鳳来南部 (福岡義洋 4733, 1999-11-18)、15 豊橋北部 (芹沢・芳山 254, 1984-10-10)、17 田原東部 (小林 40833, 1993-3-14)。西：5 稲武 (小林 45943, 1993-8-3)、19 旭 (塚本威彦 565, 1993-6-16)、20 足助 (日比野修 3294, 1996-4-17)、22 小原 (日比野修 2340, 1994-7-11)、23 藤岡 (日比野修 3586, 1996-7-7)、29 岡崎北部 (小林 55381, 1994-12-3)。尾：37a 瀬戸 (塚本威彦 147, 1992-6-13)。11 作手と 12 新城にもあるという (小林 2000)。13 豊川 (宮路山, 加藤等次 s.n., 1949-10-23)、25 豊田北西部 (猿投山, 岡本英一 296, 1958-5-19)、48 春日井 (坂下町内津, 井波一雄 s.n., 1934-11-18, CBM264612) で採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州 (関東地方以西)、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生育地の環境／生態的特性】

山地の樹幹や岩上に着生する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

多いと言うほどではないが、あちこちで見ることができる。愛知県ではカヤヤスギなどの針葉樹に着生することが多く、岩場にも見られる。樹幹に着生する場合は、確認できるものは実際に存在する量のごく一部にすぎないと思われる。森林性の植物であるため、自然林が広範囲に伐採された時代には相当減少したと思われるが、近年に限ればさほど減少してはいない。遷移等によって消滅するおそれはなく、また園芸目的の採取も、現在のところはそれほど脅威になっていない。

【保全上の留意点】

マメヅタランの場合と同様、本種が生育しているような自然度がある程度高い森林は、今後も注意して保全していく必要がある。また、神社の境内にあるスギなどの大木は、樹齢数百年になっていることも多く、ムギランやセッコクなど多くの着生ランの生育適地になっている。文化財としても重要であるが、その木 1 本だけでなく、周囲の樹木も含めて保全することが必要である。

【特記事項】

和名は、偽球茎が麦粒に似ているからである。

【引用文献】

小林元男. 2000. 新城地方の植物 p.184. 愛知県, 名古屋

【関連文献】

保草本Ⅲ p.59, 平草本 I p.231, 平新版 1 p.185.